

# 《令和5年第2回大空町議会定例会一般質問通告内容集約書》

【5名7件】

[令和5年6月12日整理・大空町議会事務局]

質問日	順	質問者	質問事項	頁
6月19日 (月曜日)	1	福田 淳一 議員 (質問時間 30分) 質問受付： 令和5年6月12日 午前10時30分	1. 寄附金の対応と用途について	1
	2	川村 淳 議員 (質問時間 30分) 質問受付： 令和5年6月12日 午前11時45分	1. 認定こども園の利用条件緩和について 2. 大空高等学校交流拠点施設（寄宿舍）の今後の方向性について	2
	3	鈴木 秀之 議員 (質問時間 30分) 質問受付： 令和5年6月12日 午後0時10分	1. 民間活力を活かした行政運営について 2. 中学校部活動の地域移行について ～誰でも楽しく部活動ができる環境づくりについて～	4
	4	後藤 忍 議員 (質問時間 30分) 質問受付： 令和5年6月12日 午後4時20分	1. アドベンチャートラベルについて	6
	5	上地 史隆 議員 (質問時間 30分) 質問受付： 令和5年6月12日 午後4時59分	1. こども基本法の取組みについて	7

※ 一般質問は「一問一答方式」にて、通告順により行われます。

※ 傍聴席入口に掲示の傍聴規則を順守の上、携帯電話の電源はお切りくださるよう御協力をお願いします。

※ 御不明な点などがありましたら、議会事務局までお問い合わせください。

質問事項	質問の要旨	質問相手
1. 寄附金の対応と使途について	<p>(1) 町民等から寄せられた寄附金については、寄附者の意向や想いなどに沿って、年度内事業化されていると思いますが、事業化の予定が無い事業等への寄附金の対応と使途について伺います。</p> <p>(2) 当面の事業化の予定が無い事業への寄附金や金額が満たなく、単年度での実施が厳しい状況にある場合や、寄附を受け経年劣化し修繕が必要な場合など、寄附者の意向等に沿えるよう町の規程などを見直す考え等はないのか伺います。</p>	町長 教育長

質問事項	質問の要旨	質問相手
1. 認定こども園の利用条件緩和について	<p>(1) こども園利用にかかる利用条件の緩和について  政府は、少子化対策案として、『親が就労しているかに関わらず保育所を利用できる制度を創設する方向で調整に入った。』との報道が3月23日になされました。  内容としては、これまで保育所を利用するにあたって、「両親が一定の時間以上就労している」「同居家族の介護をしている」といった『保育の必要性』が認定される必要性がありましたが、これを緩和し、『全ての子育て家庭が利用できる制度とする。』というものです。  本町においては、以前より、特に農家世帯の冬季間の預け入れについて、『農家の仕事なくなると同時に、預かり保育のお願いができないので、改善してほしい。』との声が多く届いていますが、認定こども園における子育て支援策として、これら要件等の緩和についての考えを伺います。</p> <p>(2) 保育士の雇用に関する課題について  世間では、保育士不足が大きな課題となっています。本町においても同様で、短期契約での臨時雇用の職員が多いのではないかと思います。入園要件等を緩和した場合、保育士不足の課題も同時に発生してくると思います。  全国的に保育士の方々の悩みとして、「責任が重い」「賃金が低い」「休暇を取りにくい」「人間関係に不安がある」「体力に不安がある」などが多く寄せられている実態のようです。他地域と同様に、本町も保育士の人材確保には苦勞していると思いますが、町では、保育士不足についてどのように考えているか伺います。</p>	町長

<p>2. 大空高等学校交流拠点施設（寄宿舍）の今後の方向性について</p>	<p>(1) 大空高校の魅力と交流拠点施設の位置付けについて          高校魅力化とは、その地域・学校でなければ学べない独自カリキュラム、公営塾の設置、教育寮を通じた全人教育の3本柱で成り立っており、多くの生徒が行きたい、保護者が通わせたい、魅力ある高校にするプロジェクトです。          大空高校の交流拠点施設は、これら魅力化の3本柱の一つとなっており、魅力化を推進するにあたって非常に大きな役割を担っている施設であると認識していますが、町として交流拠点施設についてどのように捉えているか伺います。</p> <p>(2) 令和6年度の入寮に係る生徒の受け入れについて          本年4月より、供用開始された交流拠点施設ですが、大空高校の開校から2年2ヶ月が経過し、現場の教職員をはじめ教育委員会及び行政の取組みによって、既に定員に達するほどの成果を上げられており、町民として誇らしく嬉しく思っています。          しかし、来年度(令和6年度)の入学希望者の募集説明会が今月から始まり、また8月には、オープンキャンパスも予定されているところですが、現在の3年生の入寮生は男女合わせて9名、この生徒達が卒業後に交流拠点施設に入寮できる1年生は、施設の定員から必然と9名となります。          令和5年度の入寮生が18名、更に来年度からは、受け入れる町外枠の募集定員が昨年までの30%から50%へ拡大する中で、今年度の実績から考えても町外からの入学希望者が増えることが少なからず予想されており、新しい交流拠点施設では対応できないのではないかと考えるところです。          昨年のおふれあいトーク（東藻琴）では、心配される町民の声に対し、町は、『旧東藻琴高校寮の活用予定。』と回答されていますが、現時点での来年度に向けての対応等についての考えを伺います。</p>	<p>教育長</p>
--	--	------------

質問事項	質問の要旨	質問相手
<p>1. 民間活力を活かした行政運営について</p>	<p>包括連携協定は、地方自治体と民間企業、団体等が持つ専門的な知識、技術、経験を地方自治体が抱えている環境、福祉、防災、教育、まちづくり等の課題解決に向けて連携して取り組む仕組みであると思います。</p> <p>高度情報化社会においては、行政課題を解決する一つの手段として、民間の活力やノウハウを地域の活性化や町民サービスの向上に活用する手段として包括連携協定の活用は必要なことであると認識しています。</p> <p>大空町における包括連携協定による事業展開とその効果について伺います。</p> <p>(1) 各包括連携協定による事業運営の状況と政策分野での連携効果について 各連携協定による事業の現時点での評価、事業効果について伺います。</p> <p>(2) 包括連携協定による事業成果の周知について 協定締結については、新聞、町広報で公表されていますが、協定に基づく事業成果に関する町民への情報提供について、現状と今後の対応を伺います。</p> <p>(3) 行政運営の公正、透明性の確保対策について 民間企業との連携で公共の福祉の増進を図る観点から公明性が求められると思います。 連携先を決める基準はどのような観点からなされているのかを伺います。</p> <p>(4) 今後の包括連携事業展望について 現在の協定に基づく事業実施展望と新たな包括連携協定を活用し、施策の充実を進めようとしておられるのかを伺います。</p>	<p>町長</p>

<p>2 中学校部活動の地域移行について ～誰でも楽しく部活動ができる環境づくりについて～</p>	<p>令和4年12月にスポーツ庁と文化庁から「学校部活動及び新たな地域クラブ活動の在り方等に関する総合的なガイドライン」が出されました。</p> <p>文部科学省としては、令和5年から令和7年までを「改革推進期間」と位置づけ、休日の部活動については、地域と連携することや学校外の多様な地域団体が主体となる地域クラブ活動へ移行することについて、地域の実情等に応じて可能な限り早期の実現を目指すように各自治体に求めています。</p> <p>今年度の教育執行方針にもこの「地域移行」対応について触れられていますが、現時点での検討状況について伺います。</p> <p>(1) 地域特性を考慮した部活動振興策について</p> <p>中学校の生徒数が減っているため、部員が集まらない部活もあり、野球等1チームあたりの人数が多いスポーツでは、学校単独でのチームづくりが出来ず、複数の学校でのチーム作りをするなど、指導現場での創意工夫により活動が展開されている現状もあります。</p> <p>練習や試合等で地域間移動の機会も増え、指導者や保護者の負担増加も懸念されます。</p> <p>指導者の確保においては、町内での指導者確保が望ましいのですが、種目によっては、難しい状況もあります。</p> <p>地域特性を活かした部活動の展開に向けた教職員、保護者、地域の指導協力者等との連携協力、支援体制づくりについて、どのように進めようとしておられるのかを伺います。</p> <p>(2) 推進計画等の策定について</p> <p>「地域移行」を進めるための地域スポーツ・文化芸術環境整備計画の策定は、どのような体制で検討を進めようとしておられるのかを伺います。</p>	<p>教育長</p>
---	---	------------

質問事項	質問の要旨	質問相手
1. アドベンチャートラベルについて	<p>本年9月に、札幌コンベンションセンターをメイン会場として、「北海道でアドベンチャートラベル・ワールドサミット（ATWS）」が開催されます。</p> <p>アドベンチャートラベルの世界市場規模は70兆円を超えと言われており、従来の旅行形態と比較して、旅行者一人当たりの消費額や地域への経済波及効果が大きく、また、ウィズコロナ時代において需要拡大が期待できる観光分野として注目を集めています。</p> <p>北海道は、世界自然遺産の知床をはじめとした「美しく雄大な自然」や「豊かな食・文化」、サイクリングやスキーといった「多様なアクティビティ」を楽しむ環境が整っており、オホーツクの空の玄関口「女満別空港」を抱える大空町においても、今後の観光・関係人口の増大が期待される所です。</p> <p>(1) 現在までの観光振興の状況と課題について伺います。</p> <p>(2) 今後の観光施策の柱の一つとして、アドベンチャートラベルが位置づけられると考えますが、町として、どのような認識及び考え方なのか伺います。</p>	町長

質問事項	質問の要旨	質問相手
1. こども基本法の取組みについて	<p>令和5年4月にこども家庭庁が創設され、こども基本法が施行されるなど、こども政策は新たな展開を迎えています。その中で市町村に関わることについて、次の点について伺います。</p> <p>(1) 自治体こども計画の策定の考えについて</p> <p>(2) こども政策の適正かつ円滑な実施のため、関係機関、団体等の有機的な連携の確保について</p> <p>(3) 子どもの意見等の政策への反映について</p>	町長 教育長